令和８年度　第１回とやま21世紀水ビジョン推進会議　議事概要

日時：令和８年８月25日(火)
13：30～15：00
場所：富山県民会館611号室

■出席者（五十音順、敬称略）

【委員】

青野　洋徳　（林野庁富山森林管理署長）
飯野　美代子（(公社）富山県建築士会常務理事）
上坂　展弘　（黒部市長）
　【代理出席】高本市民福祉部次長
尾栢　光江　（富山県婦人会幹事）
川端　栄子　（NPO法人　富山県自然保護協会副理事長）
久加　朋子　（富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科准教授）
谷口　真人　（総合地球環境学研究所特任教授・プログラムディレクター）
張　　勁　（富山大学副学長、(公財）環日本海環境極力センター理事）
富樫　豊　（公募委員）
中谷　洋明　（国土交通省富山河川国道事務所長）
　【代理出席】河村副所長
藤井　侃　（とやま名水協議会会長、富山県深層水協議会会長）
藤本　孝子　（富山大学学術研究部教育学系准教授）
不破　光大　（富山県生物学会事務局長）
宮田　義人　（富山県土地改良事業団体連合会専務理事）

【欠席委員】

上坂　博亨　（元富山国際大学現代社会学部教授、富山県小水力利用推進協議会副会長）

【事務局】

杉田生活環境文化部長、柳田生活環境文化部理事、熊本県民生活課長
ほか関係課担当職員

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

■　会議次第

１　開　　会
２　あいさつ
３　議　　事
（１）「とやま21世紀水ビジョン」に基づく各種施策の進行状況等について
（２）水に関わる新たな動きや取組み等について
（３）水源地域保全条例に基づく届出状況について

（４）とやま 21 世紀水ビジョンの見直しについて
４　閉　　会

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

（１）「とやま 21 世紀水ビジョン」に基づく各種施策の進行状況等について［事務局説明］
（２）水に関わる新たな動きや取組み等について［事務局説明］
（３）水源地域保全条例に基づく届出状況について［事務局説明］

【議長】
今ほど説明ありました（１）から（３）の内容に関しまして、質問、それからご意見をお願いします。
【委員】
このようなことを県民の皆様にどのように伝えていくか、理解いただくかがポイントだと思います。川などにみんなで行ってゴミ拾いなども大切ですが、環境教育としてのレクチャーもあるでしょうけど、実際住んでいるところで環境を感じられるようにできないか、水と森が日常生活に感じられるように、空いている土地にグリーンスポットなどを設置し、水とか緑が接していることが基本であり、今すぐではなく視野に入れて、念頭に置いていただくとよいかと思います。
【議長】
実感できることが重要な点だと思う、住んでいる場所ごとにも条件も異なるからそれぞれの方が実感できる施策とか教育などが重要だと思います。

（４）とやま 21 世紀水ビジョンの見直しについて

【議長】
今ほど説明ありました（４）の内容に関しまして、質問、それからご意見をお願いします。
【委員】
とやま 21 世紀水ビジョンの見直しについて、第 1 章、第 2 章はこれまでの延長線上の話かと思うが、第 3 章はかなり曖昧な内容のように思っております。
第 3 章の地球温暖化について、猛暑日は平成３０年から比べてかなり増えてきている。そのような中で、今回の渇水による取水制限については、庄川の源流である御母衣ダムは岐阜県にあるが、問題が起きているのは富山県であることから、エビデンスを正しく理解する必要がある。今までの水循環像全体像について、エビデンスについては時間的、空間的に細分化することが必要と思っている。雪が少なかった分、春先から川に水がなくなっており、田植えもその時期に合わせておらず、水について考えていない。面的管

理と細かな点的管理を合わせた管理が必要。そして、県境を跨いで、課も跨いだ管理をできたら良いと思う。水管理や森林、街づくりなどそれぞれ違ったところで管理されているので、水ビジョンは網羅されたセットで作る必要がある。

もう１つは第３章の２「酸性雨」と記載されている部分についてです。ph は近年では上昇しており、二酸化炭素が溶け込んでいるものと同じ状態となっている。大きく問題がないわけではないですが、大きく取り上げて記載する必要がないのではと思いました。

【事務局】

渇水対策に関しては、今までの水ビジョンに記載はあったが、いただいた意見を踏まえて対策を検討していきたいと思います。

【議長】

渇水対策と洪水対策の両面を進めないといけないということは、水を貯めるということと、水を吐けさせるというトレードオフという状況。貯めるという面では雪が少ないということが原因で、もう一つとして求める水は地下水。ただ地下水に頼りすぎると問題が出るということで水循環基本計画の中ではそのような注意が出ている。色々なことを重なって考えないといけないことが、水の中だけでもたくさんあるので、課を超えてトレードオフとならないような施策をつくっていかないといけないと思います。

【委員】

環水公園について、イルミネーションなどの観光はもちろん大事ではございますが、現状、横からのいたち川からの水の流入が少なく濁っており、残念なことになっているため、見かけのものだけではなく、本当に大事なものはなにかを考えて対策を講じていただきたいと思います。

また、水道の配管についてですが、前回の会議で配管の交換をしてほしいという意見があったと思います。今回耐震という部分で記載がされていますが、それについても次期計画に反映していただけたらと思います。

【委員】

渇水の問題においては陸地の保水能力をどうするかという問題があると思います。山岳地帯はもちろん、平地についても新しい項目を述べてということではありませんけれども、休耕田も増えているし、都会でも空地も増えており、その中でも相続により土地が細切れになってきており、庭も減ってきている。保水能力は自分達の住んでいる所でも確保できることから、緑をもっと水と関連させて発展させていく方向で進めていただければと思います。

【委員】
指針について、科学的エビデンスはどこにも転がっていない。IPCC（気候変動に関する政府間パネル）は調査から入っている。水ビジョンには現状把握などあってもいいと思う。ちょっとした調査をしないと分からないことがある。そういった姿勢を示す指針指導があってもいい。環境は現在進行形で日々変わるから難しい。先ほど言い忘れたが、時間・空間・細分化について、全体を見て考える必要がある。富山は水が豊富なため第1、第2、第3、第4帯水層がある。庄川扇状地に搬入する場所で、25年間で第4帯水層への搬入量が倍増、第1帯水層が半減といったことがあり、こういったエビデンスが必要。
【議長】
定点モニタリングも大事だけど、10年毎に一斉点検した調査を組み合わせると全体像が見えると思います。
【委員】
近年50㎜を超える雨の影響で被害が増加しております。資料4－3で、治水・利水対策の、「「田んぼダム」の取り組みを推進することによる見直し」を新たに追加することは良いと思いますが、富山県は急勾配と緩勾配の場所が分かれているため、効果あり、なしという形で把握しながら効率的に進めることが良いと思います。
2ページの主な施策「水源」について、例として岐阜県の庄川上流で産業廃棄物の埋め立て地の計画がありますが、富山県のビジョンとして県内のことだけの記載を考えておられるのか、県外も含めて考えておられるのかを教えていただきたいです。
【委員】
今の質問に関連して、水ビジョンの見直しを行う上でリスクと価値の創造の2つを考える必要があると思います。改正案にはリスクの見直しについての記載はあると思いますが、価値の創造についての記載は観光以外の部分でより記載したほうがよいのではないかと思います。
また、地球規模の問題として水ビジョンを改正するならば、庄川上流の産業廃棄物処理施設の建設について将来富山県にどのような影響があるか、あるいは富山県として調査や対策ができるのかを水ビジョンに記載していただけるとありがたいです。
【事務局】
県外の事案の記載に関してのご質問については、富山県内に影響を及ぼすようなものであれば、その影響を念頭に計画を作成していく必要があると思っております。
環水公園の水問題に関してですが、本来はいたち川の堰で水位を上げ、水を取り入れておりますが、3年ほど前にその堰が損傷したことで立ち上げることができない状況となっ

ております。復旧工事に取り組みましたが、仮設工の設置中に出水が来たということもあり、復旧工法について見直しを行っている状況でございます。

【委員】

価値の創造の観点で、富山県の寿司がおいしい理由は水にあると思います。寿司は県民の皆さんにも興味を持たれやすい言葉だと思うので、水ビジョンの見直しをする際には追加すれば良いと思いました。

【委員】

新しい取り組みとしてネイチャーポジティブを資料の中で挙げられていますが、新しいビジョンに追加する予定はございますでしょうか。

【議長】

先ほどの価値の話もネイチャーポジティブの話もそうですが、もう一つつながるのが人材育成だと思います。次世代の人をどうつなげていくということ自体が富山の価値として重要だと思います。資料４の第２章「水を活かした文化・産業の発展」という記載がありますが、文化としての水という観点で寿司、環水公園の観光の話も会議中にございました。水環境学習という項目があるので、ネイチャーポジティブはこの項目に入ってくるのではないかと思います。こういった視点も計画に含めていただくということで検討いただければと思います。

【委員】

井戸の補助や井戸水の関係、それから能登半島地震の際の水道が破損したときの水の供給について、資料に記載がありましたが、富山県には活断層があるということが先日の能登半島地震の際に話題になっておりました。大きな地震が発生した際に地下水などに何かしらの影響が出るのかというようなことを水ビジョンに記載するかどうかということとは別に、何か検討されていることがあるかお聞かせいただければと思います。

また、治水・利水対策のところでハザードマップのお話がありましたが、その中で想定しうる最大規模の降雨という書きぶりがあったと思います。昨今 100 年に１度の大雨というようなものが毎年起こっている状況です。これもビジョンの中に盛り込めるような内容ではないとは思いますが、何か検討されていることがあればお聞かせ願いたいと思います。

【事務局】

災害井戸のお話を頂戴しました。災害井戸の設置に関しては、防災課で進めている事業でございますけれども、市町村が設置する井戸に対して補助を行っております。これについても水ビジョンの中で盛り込んでいくことを検討させていただきます。実際能登半島地震の際にも有効利用されたという例もございます。富山県でも民間の井戸について災害

時に利用できないかというところで先日、井戸を保有している事業者へアンケートを行いまして、災害時に利用してもよいというご意見をたくさんいただいているところです。これをどのように展開していくかについては検討していくところではございますが、必要に応じて水ビジョンの反映についても考えていきたいと思っております。

ハザードマップの、想定しうる最大という言葉に関して、状況の報告ですが、想定を超える災害に対応するということで主要な 41 河川に最大規模を対象とした浸水想定区域の図面を令和元年に作成しました。その後、それ以外の 210 河川についても想定最大のものを示そうということで令和８年３月に公表させていただいたというところで、漏れのないように危険な区域を明らかにしていこうという取り組みを行っています。

【委員】

ありがとうございます。近年、過去のものとは比べられないような降り方となっております。先ほど洪水や渇水の話がありましたので、想定外の雨量に対する想定等検討されているようであれば別の機会にでも教えていただければと思います。

【議長】

今回の水ビジョンの見直しは、水全体に関する富山の水の将来を描いていくことだと思います。人口減少は国内共通、温暖化は世界共通の課題です。共通の課題に対して富山の特徴ある水に対してどう運用するかがポイントです。貯めることと水を吐かすということを、両方を同時に解決することを考えないといけないこと、制度として災害と平時をつなげて考える必要があるということ、色々なことをつなげて施策を考えないといけない時代に来ていると思います。想定外の雨が降る現状のなかで、どういう風にして現実的な施策として位置付けていくかということで、本日、色々いただいた意見は、重要な案件ばかりだったと思います。地球温暖化というものは遠いものとして考えられるが、実際は現実に富山の水施策に関係していますし、富山の外の上流域の問題は総合治水で概念としては議論されている内容で、神奈川県では上流の所に神奈川県民の税金を水源税の形で払っているというところまでいくのかということを含めて、将来的には議論されていくのではないかと思います。そういう意味では、色々なものがつながっているのが水ですので、色々な疑問や課題を出していただいて、今後の会議で水ビジョンを作っていっていただければいいかなと思います。

以上